



別府総局
横田 壹成

担当記者



別府市は6月から、浜脇地区など市内の南部地域で「自治体ライドシェア」を導入する。東京などの都市部では4月から順次「日本版ライドシェア」がスタートした。名称の異なる二つの制度には、どんな違いがあるのだろうか。そもそもライドシェアとは何だろう。

ライドシェア

ふんぶん ライドシェア
って何なの？

記者 タクシーの運転に必要な各種免許を持たない人が、自家用車などを使ってお客さんを有料で運ぶサービスのことだよ。海外では市民の足として定着している。日本では原則禁止だったが、東京や京都などの都市部で「日本版ライドシェア」として4月から解禁されたんだ。

ふんぶん ライドシェアの問題やばつたくりの心配があったんだ。ライドシェアは利用者が運転手を評価する仕組みだから安全性が担保され、運賃も明瞭になり好まれたようだよ。

ふんぶん 日本で導入されなかったのはどうして？

記者 タクシー会社が市民の需要に应运えてきたっていうのが大きいと思うよ。だけど最近では運転手の減少や外国人観光客の増加でタクシー不足が観光地を中心に深刻な問題になっているんだ。

運行 自治体主導も

自治体ライドシェア

別府市、石川県小松市などで導入。実施主体は自治体。制度自体は元々あり、過疎地などで活用されてきた。昨年末に規制が緩和され、都市部でもタクシーが不足する時間帯などに運行できるようになった。実施する自治体によって事業の仕組みは異なる。運賃はタクシーの8割程度(別府市は1乗車300円以下)。

日本版ライドシェア

東京や京都などの都市部を中心とした区域で導入。実施主体はタクシー会社。国が指定する地域や時期、時間帯限定で運行可能。一般ドライバーが自家用車などで客を有料で運ぶ。配車アプリを利用する。事前に目的地や運賃を確定させ、支払いはキャッシュレス。運賃はタクシーと同水準。

別府市、6月から導入

ふんぶん ふんぶん。ところで、都市部で始まった日本版ライドシェア、ってどんな内容？

記者 まず、タクシー会社が運行管理することに なっているんだ。国が定めた地域、時間帯に限定される内容。

記者 別府と人口が同規模の石川県小松市では、スタートアップ企業が開発した配車アプリを使って、タクシーが不足する時間帯に運行しているよ。決められた区域内であれば、タクシーと同じようにどこへでも行ける。自治体ライドシェアはサービスの仕組みが実施自治体によって大きく違うんだ。

記者 別府の「自治体ライドシェア」は「日本版」とはかなり違うんだ。自治体が主導することが名称の由来。実は「自家用有償旅客運送」といって以前からあった制度だよ。過疎地とかでは認められてたけど、昨年末により多くの地域で導入できるように法の解釈を見直したんだ。

ふんぶん ライドシェアで地域の課題は解決されるのかな？

記者 現状ではドライバー不足の解消に、どこまで実効性があるのか疑問視する声もあるよ。海外みたいな形で一気に導入すると、既存の事業者の経営に影響するだろうし、安全性も心配だよ。だから慎重に進めてるんだけど、市民にとっては利便性も大事。国はタクシー会社以外も参入できる「全面解禁」について議論し、状況は流動的なんだ。今後、両立できる形を探っていくんじゃないかな。

ふんぶん 別府市ではどんなサービスが始まるの？

記者 10人程度が乗れるワゴン車を市が用意して、病院や商店を定時定路線で循環するんだ。運転手は1種免許を持つ市民らから人ほど募る予定。南部地域で始め、将来的には別の地域でも実施する計画のようだよ。

ふんぶん 乗り合いバスって感じだね。他にも自治体ライドシェアを導入している地域があるよ。



〔問①〕ライドシェアとは？

タクシーの運転に必要な2種免許を持たない人が、自家用車などを使ってお客さんを有料で運ぶサービス。

〔問②〕「日本版ライドシェア」の特徴は？

（ タクシー会社 ） が運行管理をすること。

〔問③〕別府市で行う「自治体ライドシェア」の特徴は？

病院や商店を（ 定時定路線 ） で循環する。

（ 乗り合いバス ） のようなシステム。

〔問④〕あなたのライドシェアに対する考えは？ その理由も含めて述べよう。

自由記述